



## 瀬戸ラグビースクールの目標・指導方針

### 〇はじめに

私たちラグビー経験者（愛好家）は、ラグビーというスポーツの素晴らしさを体験し、その魅力を次代を担う子供達にひとりでも多く伝えたいという願いをもってスクールを開校しました。

従って、一握りのエリート選手を養成するのが目的ではなく、将来、子供達が自分の意志で部活やスポーツを選択するとき、できるだけ多くの子供達がラグビーを選んでくれることを望んでいます。

そのため心身の発達が著しい児童期にラグビーに必要なスキルとセンスの芽を育てることと、ラグビーの楽しさを体験させてあげたいと思っています。

# 前進

アタックもディフェンスも前へ！

勝ったり、勝ったり、負けたり、負けたり、負けたり、勝ったりの  
全員参加、全員FW・BKが瀬戸ラグビースクール

### 〇瀬戸ラグビースクールの基本目標

- ①ラグビーのおもしろさや楽しさを味わう。
- ②心と身体をたくましく育てる。
- ③思いやりと友情の輪を広げる。
- ④ラグビースピリット(One for all, all for one)・マナーを身につける。



## 平成30年度の指導方針と目標

# 前進

Forward (前へ)・Call (呼ぶ)・Follow (支援)

**F・C・F 「前に出る・声を出す・フォローする」に焦点！**

全員FW・BKでアタックもディフェンスも前へ

## 平成30年度指導方針

- ① 安全を最優先に考え相手を敬い、勝利至上主義にならないよう考慮し、基本的にポジションの固定を行わず全員ラグビー、前に出るチーム作りを目指す。
- ② スクールの基本理念に準拠し、限られた時間の中で効率良く指導を行う。
- ③ 共通の認識、目的をもって練習を行い、指導員はチーフ指導員のサポートだけでなく、不得意なスクール生に主眼をおき指導する。
- ④ 高学年である6年生をミニラグビーの集大成とし、中学以降もラグビーを選択して貰い、ラグビーを生涯スポーツとして選択する子を多く育成する。

## 平成30年度指導目標

- ① 各カテゴリー別スキル目標の達成。
- ② ラグビーのルール、用語の伝達。
- ③ サポート指導員による、個人のスキル上達差の縮小。
- ④ ゲームを想定した練習方法、サポートプレイヤーの更なる向上を目指した指導方法の開示と指導方法の統一。
- ⑤ 挨拶や時間厳守の基本的な生活態度の指導。

## ○各カテゴリー別スキル目標



### ■ 幼児 / U 0 6

#### ◇ 基本的な体作り(柔軟性、体幹、敏捷性)

- ① 前に出られる子を育てる。【前進】
- ② 動きながらの手渡しパス(ガットパス)の習得。
- ③ 走り方の習得。
- ④ タックル基本の習得。(捕まえたら放さない)

### ■ 低学年 / 1・2年生 / U 0 8

#### ◇ 基本的な体作り + 組織プレーの発芽

- ① 前に出られる子を育てる。【前進】
- ② 色々な走り方の習得。
- ③ コンタクトの基本姿勢の習得。
- ④ パス & キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス)
- ⑤ サポートプレーの意識付け。
- ⑥ 肩で当たるタックル基本の習得。(捕まえたら放さない)

### ■ 中学年 / 3・4年生 / U 1 0

#### ◇ コンタクトプレー + 組織プレーの習得

- ① ゲインラインの意識。【前進】
- ② サポート・コンタクトプレーの習得。(ダウンボール)
- ③ モール・ラックの習得。
- ④ 前に出て肩で当たるタックルの習得。
- ⑤ パス & キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス・平パス)
- ⑥ ターンオーバーの意識付け。

### ■ 高学年 / 5・6年生 / U 1 2

#### ◇ ミニラグビーの集大成 + 組織プレーの成熟

- ① 前に出るアタック・ディフェンス。【前進】
- ② 全員フォワード、全員バックスの育成。
- ③ ラグビーの理解度を高め、ポジショニングの意識付け。
- ④ サポート、コンタクトプレーの成熟。  
(低く肩でヒットするタックル・ダウンボール・パス・キック・ブレイクダウン)

### ■ ジュニア / 中学生 / U 1 5

#### ◇ 更なるラグビーのスキル + 理解度

- ① 基本スキルの充実。
- ② 身体づくり。
- ③ 自主性の達成。
- ④ ミニからジュニアの違いを理解する。